

第5期 さかえ・つながるプラン「区計画」素案の意見募集実施結果について

栄区では、第5期さかえ・つながるプランの策定にあたり、素案の内容について意見募集を実施しました。栄区在住・在勤の皆様から貴重なご意見・ご提案を賜りまして誠にありがとうございました。このたび、実施結果といただいたご意見への考え方をまとめましたので公表いたします。

1 実施概要

(1) 実施期間

令和7年11月1日～12月5日

(2) 意見募集の方法

電子申請システム、郵送、Eメール、ファクス、窓口持参

(3) 周知方法

ア 素案冊子の配布 計40箇所

区役所、栄区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、地区センター、駅、スーパーなど

イ 関係団体への説明 計11箇所

区連合町内会自治会連絡会、区民生委員児童委員協議会、各地区別計画推進母体の会議など

ウ 広報

広報よこはま栄区版、栄区ウェブサイト、栄区公式X

2 実施結果

(1) 寄せられたご意見総数

28件

(2) 提出方法による内訳

ア 電子申請システム 16件 イ メール 1件 ウ はがき9件 エ その他2件

(3) ご意見の内容

分類	考え方	
A	ご意見を踏まえ、第5期計画に反映するもの	11件
B	ご意見の趣旨が素案に含まれているもの、また素案に賛同いただいたもの	5件
C	第5期計画推進の参考とさせていただくもの	14件
D	そのほか(質問・感想等)	1件

【いただいたご意見と、ご意見に対する考え方】

※ご意見については、いただいた内容のまま掲載しております。

	いただいたご意見	分類	考え方
1	<p>計画の推進のために、会議や啓発活動が増えるなど、地域活動への参加を暗に強制されるような圧力を感じる。個人的な時間や生活を犠牲にしてまで、この計画に貢献する必要性を感じない。「支えあい」は自然発生的に生まれるべきものであり、行政が計画として上から押し付けるものではない。計画主導で取り組んでも、地域住民の真の共感や自発的な行動には繋がりにくいと考え。</p>	A	<p>地域福祉保健計画についての説明ページを追加しました。(計画冊子 63 ページ)</p> <p>計画の趣旨や目的についてご理解いただけますと幸いです。</p>
2	<p>計画に盛り込まれている目標や指標が抽象的で、「誰もが安心できる」といった表現は、達成されたかどうかを客観的に測ることが難しい。計画の策定・評価に多くの時間と費用をかけるに見合う具体的な成果が見込めないのではないかと懸念する。「協働」や「主体性」を求めばかりで、結局のところ、行政の責任が曖昧になり、ボランティアや一部の熱心な区民に過度な負担を押し付ける結果になることを懸念する。</p>	A	<p>地域福祉保健計画についての説明ページを追加しました。(計画冊子 63 ページ)</p> <p>計画の趣旨や目的についてご理解いただけますと幸いです。</p>
3	<p>「つながり」の必要性は理解できるが、既に多くの活動や団体が地域内で存在しており、新たな計画を策定しなくても十分機能しているのではないかと懸念する。計画が目指す「支えあい」は、町内会や自治会、民生委員、既存の NPO、地域ケアプラザなど、すでにある組織や活動でカバーされている。新しい計画は、それらの活動に新たな負担をかけるだけで、実質的な変化をもたらさない可能性がある。</p>	A	<p>地域福祉保健計画についての説明ページを追加しました。(計画冊子 63 ページ)</p> <p>計画の趣旨や目的についてご理解いただけますと幸いです。</p>
4	<p>計画の認知度が低いことは、区民がその必要性を感じていない何よりの証拠だと考えます。本当に重要で切実な課題(例:大規模災害対策、緊急性の高い医療・介護サービス)であれば、行政が広報せずとも、区民は自ずと関心を持ち、情報を取りに行きます。「さかえ・つながるプラン」の認知度の低さは、計画が掲げる目標や活動が、多くの区民の日常的生活課題と直結していないこと、あるいは既存の地域活動で充足できていることの裏返しではないでしょうか。区民の関心や必要性の低い計画に、多額の人件費や労力を投入する必要があるのか疑問です。</p>	A	<p>地域福祉保健計画についての基本的な考えを説明したページを追加しました(計画冊子 63 ページ)。また、本計画が区民の皆様の日常的生活課題につながるものであること等、計画の趣旨についても計画冊子1ページに記載しております。</p> <p>また、その他のご意見につきましては、第5期推進の参考とさせていただきます。</p>

5	<p>「いきいき暮らせる」「つながり」といった定性的な目標が多く、計画の進捗や成果を客観的に評価する指標(KPI)が不足している。結果として、計画が形骸化する恐れがある。</p>	A	<p>地域福祉保健計画についての説明ページを追加しました。(計画冊子 63 ページ)</p> <p>計画の趣旨や目的についてご理解いただけますと幸いです。</p>
6	<p>第5期計画が、これまでの計画とどう変わったのかわからない。新規の目標&取組がどれなのか示してほしい。</p> <p>3ページに計画を進める立場が示されているが、それがどのような場面で中心的な役割を担うのかわからない。結局、計画を普段意識することはなく、例年通りの取組が継続されるだけなのでは？</p> <p>p12の行動目標「思いやりの気持ちを持ち、お互いを理解し、尊重しあう意識を高めます」の取組例の中に、「合理的配慮」が入っているが、これはまちがいです。一度、合理的配慮とは何か、確認してほしいです。合理的配慮は「権利」なので、思いやり・相互理解などが高まることを待たずに、保証されるべきものはずです。対案として、「人権が保障された街づくりを推進する」などの行動目標を入れて、合理的配慮の取組を推進してほしいです。</p>	A C	<p>地域福祉保健計画についての基本的な考えを説明ページを追加しました。(計画冊子 63 ページ)</p> <p>計画の趣旨や目的についてご理解いただけますと幸いです。</p> <p>また、障害者差別解消法では、行政機関や事業者に対し、障害者から社会的バリア(物理的なバリア、制度的なバリア、文化・情報面でのバリア、意識上のバリア)の除去を求める意思表示があった場合、過重な負担でない範囲で必要な配慮を行うこと(合理的配慮の提供)が義務付けられています。</p> <p>第5期計画においては、行政や事業者に加え、地域住民にも法の趣旨や社会モデルを理解し、互いに尊重し合う意識を高めていただきたいと思います。そのため、14ページにて社会モデルのコラムを記載したほか、「企業や商店、施設などで合理的配慮を理解・実践できる場づくり」を取組例の一つに記載しました。</p> <p>その他のご意見については、第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
7	<p>隣接する他区との連携について、あまり触れられていないように思いました。</p> <p>私の町内会では、長いこと、他区の町内会と一緒に夏祭りをやっていて、その存続について課題をかかえています。子どもたちも区をこえて遊んでいます。</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
8	<p>計画の推進や啓発活動として、イベントで景品が配布される事例が見受けられます。しかし、これらの景品配布は、参加者を一時的に集めることには貢献しても、計画が目指す「つながりの創出」といった本質的な成</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>

	果に結びついていないケースが多いのではないかと懸念されます。景品を目的とした参加者ばかりが増えることは、貴重な予算の無駄遣いであり、活動の本質が薄れる原因となります。		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい(知的)が子ども(成人)にあります。 ・ゆっくり室内でイベントとしてでなく、休日過ごせる場所(家族で)があると助かります。 ・車などの移動支援情報が掲示板などがあると助かります。 ・いろいろ考えていただきありがとうございます。よろしくをお願いします。 	C	第5期計画の推進の参考にさせていただきます。
10	計画の実現には地域住民の活動が不可欠ですが、高齢化や現役世代の多忙化が進む中で、新たな担い手をどう確保するのかの具体策が全く見えません。	C	第5期計画の推進の参考にさせていただきます。
11	計画を推進するための活動が、単なる既存事業の羅列に過ぎず、新たな課題解決に繋がっていない。つまり、計画があろうがなかろうが、活動は変わらない。多忙な地域活動の担い手にとって、計画自体が分厚く読みづらいため、内容を理解する意欲が湧かず、結局は誰も活用しない「お飾り」になっている。	A	<p>計画冊子 63 ページにて、地域福祉保健計画についてのページを追加しました。また、第5期計画は多くの方に「伝わる計画」を意識し、写真を活用し、視認性を高める等の工夫を凝らしてまいりました。</p> <p>計画の趣旨や目的についてご理解いただけますと幸いです。</p>
12	全体的によく理解しやすく、ゆるやかなつながりが強調されている所が読んでいて心とまれる想いでした。PIOの4つの柱ですが、認知症の理解促進のための啓発とありますが、認知症の予防の取組も記載があればと思いました。	A	<p>計画冊子 12 ページにて、認知症予防の取組について追記いたしました。</p> <p>なお、栄区では、要介護認定者数と要介護認定率がともに増加しており、こうした状況の中、認知症への理解促進を踏まえ、今後は①認知症の人と家族の希望・困りごとを把握し継続して支援できること、②認知症の本人や家族も地域の一員として活躍していること、そして、③認知症の人が住みよいまちづくりに向けた活動に取り組んでいくこと、が一層重要になると考え、6ページでチームオレンジのコラムを掲載したほか、「認知症の理解</p>

			促進のための啓発」を取組例の一つに記載しております。
13	<p>【全体】 まず、このように意見を出せる場があること、とくに素案の段階であるということがありがたいと思います。その上で、全体的には専門家がそれぞれの福祉分野にきちんと配属されていくか、不安です。 公共施設の複合化、包括化していく中で、“見守る目”が増えても、“適切な対応”が減るのでは、利用側の困りごとは増えてしまいます。</p> <p>【P5】 ”ただ一緒に楽しむ心地よい空間で時を重ね”でも理解はすすまないです。福祉を要する人は、マイノリティです。マジョリティは、皆ひとの前提は同じと無意識に思い込んでいる。でも、マイノリティには前提が異なるという意識をもった対話が必要です。時間がかかるのです。そして手間はもっとかかる。</p> <p>【P7】 これまで、当事者同士の交流によって補われていた情報の保障には、行政が人々を能力主義からおろす、優勢思想からはなれる教育、方向性が欠かせないです。多様な場には、うまく調整できる人が大切に、そのためにはマイノリティ同士の優劣のちがいや集中がおきないためのノウハウが必要です。ぜひそうした人材育成をお願いします。 全体的にパンフレットの中の想定する困っている人が高齢と身体障害によっている印象もうけました。もうすこし、みだ目に分かりにくいマイノリティの方が困らないようにと思います。</p>	B C	<p>第5期計画ではマイノリティの方も分け隔てることなく【誰もが】という視点のもと、誰にとっても安心して暮らせる地域を目標として掲げています。 また、人材の育成についても、第5期推進にあたって取り組む行動目標として計画冊子15ページに掲載しています。</p> <p>そのほかのご意見につきましても第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
14	<p>4行目の「ダブルケア」「ヤングケアラー」という言葉は、人によってはすぐに理解出来ないのでは？専門用語的な横文字の言葉が多く出てくる社会ですが一般的なではないような。 「※」を付けて説明は必要ではないかと思いました。 誰もが分かりやすく確認出来るプランであってほしいです。</p>	A	<p>専門的な用語については可能な限り注釈での説明を追記いたしました。</p>

15	社会モデルの考え方、ぜひ栄区の中で、もっともっと、分かりやすい形で、推進していった欲しい。	B	第5期計画においては14ページにコラムという形で掲載しておりますが、引き続き皆様に伝わる工夫してまいります。
16	区社協が、何をやっているのか、なんのための団体なのか、分かりにくいです。名称を変えたり、愛称のようなものを考えたりしたら、良いと思います。	D	区社協といたしましては、理念や事業について、一層周知に努めてまいりたいと考えております。
17	[目標1]-[行動目標2]及び[目標3]-[行動目標2]に関連して。精神の障害当事者です。以前、自助グループに行きたかったが、区役所の担当者は都内の自助グループしか、知らなかったです。退院直後は、情報検索する体力も気力も乏しい時期です。退院してまず行く、区役所障害福祉課に、色々な施設や団体(自助グループ等)の情報を、集約するべきなのではないかと思えます。「特定の団体への利益誘導になるのでは」という問題も、区役所で情報を集約していることを、大きく周知すれば、公平性が保たれるので、問題ないと思えます。	C	横浜市では、健康福祉局こころの健康相談センターのホームページにて、各種相談窓口に関する情報を掲載しています。また、区高齢・障害支援課では、一人ひとりの状況に寄り添いながら、自助グループなど地域の支援につながるサポートを行っています。 今後も、皆さまの気持ちに寄り添いながら、必要に応じて適切な支援機関へ確実につながるよう取り組んでまいります。
18	お互いに「理解する」「認める」「尊重する」「やさしさ」「気配り」「思いやり」を基本とした、区民が日常の中で意識することで実現できるとても良い計画だと思えます。ただ、気になる点は、「お互いの配慮によって認め合い」という部分。本来、配慮はお互いの理解の中で育まれるもの。思いやりや理解の気持ちから自然に生まれるものであり、配慮が前提にあるものではないと思えます。配慮という言葉も、一方向性を感じます。一方的に求められている、押し付けられている、できていないことを責められているようにも感じます。私たちが意識して取り組むのであれば、言葉の選択はとても重要だと思えますので、ご一考ください。	A	計画冊子13ページにある目標1の視点3「お互いの配慮によって認めあい、自分らしく暮らす」の中の「配慮」という語句には、さまざまな場面での思いやりに加え、その気持ちを行動や形に表していくという意味が込められています。 その旨が伝わるようP9、13ページの文言を追記いたしました。ご理解いただけますと幸いです。
19	目標1 誰もが身近な地域で...について 小学生が公園でサッカーできなくなりました。小学校では、駐車場の音がうるさい、校庭でサッカーや野球の活動がうるさい、騒音だと肩身が狭い思いです。いきいきと暮らしたいのに、子供達の居場所が追いやられています。本郷台小学校 石神公園 利用にあたって、残念	C	第5期計画の推進の参考にさせていただきます。

	<p>な思いを親子共々味わいました。子どもが未来を支えていきます。子供達を元気に導く社会であってほしいです。栄区の自然や公園が多い環境なら、可能だと思います。 目標2 取組みの視点3 デジタルの活用...について 市立保育園勤務です。パソコンを使うことに慣れていない職員が多い、デジタル移行過渡期。子供達の手世がメインの仕事であるはずが、パソコン使用の報告や広報に時間を取られてしまう感があります。 本当に必要なでしたら業務にスリム化する必要があると思います。</p>		
20	<p>栄区の人口構成 高齢者の人口が多くなりました。本郷台駅前、ゆったりしていて、誰にとっても住みやすい環境だと感じます。引き続き、駅前にパチンコ店や大型ビルのない状況を保ち続けてほしいと思いました。空き家対策が必要です。宅地造成、マンション建築による環境破壊は不要です。若い世代の人口を増やすためのアイデアがあります。生き生きと暮らすアイデア ①あーすぷらざ周辺にスケートボード練習場を作る オーストラリアの公園には、スケートボード用のU字の坂が置かれていて、子供と大人が楽しんでいました。子供達の遊ぶスペースを奪うのではなく、提供すれば子供達が増えます。本郷台駅前に、スケートボード練習場があれば若者が増えるでしょう。お昼ご飯を近くのスーパーで購入する機会も増え、財政にもプラスになると思います。スケートボードのできる道は車椅子でも通りやすい道です。②果樹園をつくる 空き家の跡地や、坂になっている土地を活かしてミニ果樹園を作れば、食べ物と憩いの場ができると思います。木々が太い根をはれば、防災対策にもなります。自然を活かして分け合える社会、素敵だと思います。無農薬の自然栽培でブランディングに魅力が増します。</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
21	<p>「さかえ・つながるプラン(素案)」の作成に心より感謝申し上げます。栄区で複数のボランティアをしている者として、地域の一員として今後の展開を楽しみにしています。本区は高齢化率・緑被率が高く、公園清掃などの活動は高齢者が中心で担い手不足が課題です。高齢者・障がい者・緑(自然)に優しい環境は、子どもに</p>	B	<p>多様な催しへの参加機会については【目標1 取組の視点1(9ページ)】、オンライン整備については【目標2 取組の視点3(19ページ)】にて第5期推進において取り組んでいく目標として掲載しております。今後ともご意見を参考にしながら、第5</p>

	<p>とって学びや交流に最適な場となります。多様な催しへの参加機会やオンライン整備が、地域全体の心豊かな生活と世代間交流につながると考えます。そして栄区の魅力が、区外の方々へ伝われば幸いです。</p>		<p>期計画を推進してまいります。</p>
22	<p>第4期から5期への地域福祉保健計画 コロナで地域コミュニティが停滞した状況が理解できました。だからこそ 地域コミュニティの大切を強調してもよいのではないかと。地域懇談会の中でコロナまえとコロナ後とはコミュニティに違い 話し合いの中ででてきましたか。4期から5期が地域福祉計画の転換期ではないか。地域再生のありようがとわれる時期ではないか</p> <p>p13 障害者同士の理解 互いを知り合う 相手をしることになるのではないかと 健常者と障害者 との互い理解を言われがちですが、障害者同士同じではないかと考えます。</p>	B C	<p>・第5期計画策定にあたり、地域福祉保健計画推進会議や関係機関でのヒアリングにおいても、コロナウィルス感染症の感染拡大の時期を経て、改めて人と人とのつながりの大切さを感じたというご意見をたくさんいただきました。計画冊子4ページに第4期から第5期の課題について記載しておりますので、ご参照ください。</p> <p>また、そのほかのご意見については第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
23	<p>栄区は高齢化が進んでいる地域であるが、支え合う心は持っていると感じる。一方、課題はある。フードドライブは団体内で募金し新規品を購入し寄付、フードパントリーは毎回同じ人に配布等運営方法に疑問。次年度からは運営方法を見直しすると聞いている。是非より広く日々の幸せを感じる運営方法に変えて頂きたい。また、町内会加入率が減少している。市の1.4%減に対し栄区は3%減と加速している。世代交代による栄区への転入が増えても加入が増えない。計画の理念や目標が実現性希薄で、世帯に届いていない。まずは地域に寄り添う世帯を増やす必要がある。例えば、ゴミステーションを取り上げてみると、設置されているのが当たり前で、設置している団体が支えている現状を理解していない。福祉保健とは何か。障がい者、生活困窮者、高齢者のみならず身近な生活を支えていく、という意識を持ってもらうことが「みんなが支え合う」ことではないか。いずれにしても、支える個人、団体の土台をしっかりさせることがまずスタートと考える。区全体がそのようなになっている訳ではないが、一意見として参考にして頂ければ幸いです。</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>

24	<p>進めたい取組みは、車椅子の農業 です。 レイズアップ農法 レイズドベッドは 土を盛り上げたり 高い台状のプランターを使って 座ったまま 車椅子の高さで作業できるようにする農法のことです 特徴 一 作業台の高さを 60センチから80センチ程度に上げる 車椅子のまま手が届く 二 通路を広くとる 車椅子が回転 移動しやすい 三 腰や膝に負担が少ない 高齢者 障害者の農業参入にも適する 四 家庭菜園から本格的な農園まで応用できる 向いている作物 レタスやほうれん草などの葉物野菜 いちご ハーブ類 ミニトマト ピーマン ラディッシュ ミニニンジンなどの 小型の根菜 車椅子農業設備のアイデア 一 高さ調整ができる栽培台 車椅子の座高に合わせて調整できる 二 U字型 この字型レイズドベッド 前方だけでなく 横からアクセスできる設計が便利 三 自動灌水システム ホース操作が難しい場合に有効 四 温室 ハウス内を完全バリアフリー化 広めの通路 段差なし 滑りにくい床 車椅子農業の成功事例 福祉施設で農業を行う農福連携 車椅子ユーザーの就労支援としてのレイズドベッド栽培 都市型農園におけるユニバーサルファーム設計</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
25	<p>ボランティアの募集を活発に行ってください。 例えば、中学生、高校生に声かけしてボランティアの世代交代を図って頂きたい。</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>
26	<p>配慮という言葉は強制感や義務感を抱きます。自発的に湧き出る気遣いや心遣い、思いやりで充分ではないでしょうか。目標や視点に入れる言葉ではないと思います。</p>	A	<p>計画冊子 13 ページにある目標1の視点3「お互いの配慮によって認めあい、自分らしく暮らす」の中の「配慮」という語句には、さまざまな場面での思いやりに加え、その気持ちを行動や形に表していくという意味を込めています。 その旨が伝わるよう9、13 ページの文言を追記いたしました。ご理解いただけますと幸いです。</p>
27	<p>・自分たちにより近い計画になっている。障害を特出するのではなく、地域全員（障害者、高齢者、妊婦、外国人等多様な人々全部）が同じ土俵で取り組むものとして捉え、計画を立てていることが素晴らしい。</p>	C	<p>第5期計画の推進の参考にさせていただきます。</p>

	<p>・(障害の社会モデルの啓発は進めるものだとは思いますが、)自分たちは精神障害の分野に関わっており、外からみえにくく、困っていることがわかりにくいいため、声をかけてもらったり理解してもらうことが難しい。障害の有無に関係なく、地域共生社会を目指す「心のバリアフリーの推進」について説明をしてもらうことで、住民の皆さんにはわかってもらえるのではないかと思った。</p>		
28	<p>第4期を振り返り、第5期の課題へとつなげていることが素晴らしい</p>	B	<p>皆様からのご意見を計画冊子4ページに掲載しております。</p>